

令和 7 年 度 学 校 評 価

本年度の 重点目標	主体的・対話的な深い学びの授業への改善を推進するとともに、生徒の汎用的な能力の向上を促し、自主的、自律的な学習を支援する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	コロナ後の学校行事・式典・PTA行事の運営・進捗を、コロナ以前に戻すものと、変えていくものを再検討し、行事等の再構築を図る。	コロナ後の、行事・式典について、管理職・PTA役員と連絡を密にして状況に応じた対応を話し合う。コロナ以前に戻すもの、新たに变えていくものを相談の上検討し再構築していく。さらにそれぞれについて審議・検証を並行して行っていく。	学校行事、式典については保護者の来校数に制限をつけたコロナ期の対応を引き続き継続した。よって、行事・式典の進行において人数的に余裕を持った進行ができた。PTA活動については、例年通りコロナ前と変わらぬ形で継続をし、PTA役員・委員全体での活動・会議、および分科会活動それぞれにおいて予定通り進行することができた。来年度の課題としては、保護者の来校人数制限を要望に対してどう対処していくかである。
教務部	教務における業務の効率化、情報化の推進及び新教育課程や観点別評価の円滑な実施	デジタル採点システムを導入し、採点業務の効率化を図る。1人1台端末などのICT活用を推進する。新教育課程や観点別評価の円滑な実施に努める。	デジタル採点システムが定着し、使用する教員も増加した。考査の返却もシステム内で行う教科もあり、採点業務の効率化を図ることができた。ICTの活用については各教科での活用事例を共有、意見交換することができた。来年度の新入生から県貸与の端末ではなく、個人所有の端末を学校に持参することになるので、推奨端末の選定や運用規定の作成について議論を進めている。観点別評価は、その趣旨にもとづいて適切に行うことができた。来年度も今年度までの問題点や改善点をふまえ、業務をさらに効率よく進めていけるようにしていきたい。
生徒指導部	豊かな人間性と社会性を備えた、行動力のある生徒の育成	挨拶の励行、遅刻防止、交通安全と登下校のマナー、マナー・モラルの向上、携帯電話等の取扱、身だしなみについて、ST、学年集会、講話等で啓発を行う。また、生徒指導部を中心に全教員で、朝の立ち番指導、下校指導、声かけを行う。	挨拶を積極的にする生徒が多くなってきた。遅刻及び欠席に関してはコロナ禍以降増加の一途をたどっている。欠席連絡に使用するツールの見直しも含め、歯止めをかけられるようにしたい。交通安全に関しては新年度から自転車の青切符制度が始まることもふまえ、ヘルメットの着用とともに生徒自身のマナーを更に指導したい。他のマナー・モラル、身だしなみに関しても、まずはTPOをわきまえた行動がとれるよう、家庭と協力して指導をしていきたい。
進路指導部	望ましい勤労観・職業観を涵養し、生徒が自らの生き方を考えつつ、高い目標を掲げて意欲的に学ぶ姿勢を育てる。	適切な時期に進路行事を設定し、生徒一人一人が自らの将来について深く考える機会をつくる。また、各教科・学年と連携し、学力及び学習意欲を高める上で効果的な学習指導を展開する。	各学年と連携しながら、適切な時期に卒業生を招いた講演会等を設定し、進路意識の涵養に努めた。また、各教科の協力を得ながら、課外授業・自主学習質問会を実施し、生徒の学力向上に資することができた。コロナ禍以降、欠席・遅刻が増加傾向にあり、課外授業についても同様の状況が見られる。課外授業等、学校における学習活動の意義をしっかりと生徒に伝える体制を構築する必要がある。
保健部	自己健康管理能力の向上を図る。	「保健だより」を発行するなどして健康に関わる情報を発信することにより、早期に心の危機サインを認識し、自らのストレス対処スキルの育成に努める。	生徒保健委員や養護教諭により「保健だより」を発行して全校生徒に情報発信を行ったが、主なテーマはからだの健康管理や学校生活における安全対策となってしまった。次年度は「保健だより」のテーマ設定をする際に心の健康面に比重を置いていきたい。
図書部	図書館利用の促進	「図書館だより」、「図書館報」の定期発行を通して読書の啓発を行う。図書委員会による広報活動や図書館における展示活動を充実させ、魅力ある図書館作りを行う。	今年度も例年通りに「図書館だより」「図書館報」を全校生徒に発行し、読書の啓発を行った。文化祭では図書委員会によるコラボ企画として「万博は流転する」というポスター発表やミニ展示を行った。昨年より貸し出し冊数は増えたものの、授業での利用が減った影響もあり、来館者数が減少したことが課題として残った。今後も魅力ある図書館作りを考えていきたい。
特活部	学校行事の充実と円滑な運営開かれた生徒会活動	生徒議会・各委員会を通じての生徒の参加意識の向上 ICTを活用して生徒がより一層学校行事に参加しやすい環境づくり Teamsを使用し、全校に対して生徒会活動の内容を発信・周知する。	ICTの活用に重点を置き活動した結果、生徒会執行部や議員、各行事の際に活動するリーダー(Ex 体育大会の団長、文化祭の各クラス正責任者)との連携や伝達はスムーズにいくようになった。しかし全校生徒への伝達になると全校放送やクラス掲示の方が周知できるのが現状である。今年度は特活部の教員からみて、生徒が自分たちで決めて行動する場面が多くみられた。少しづつでよいので生徒が活躍できる場を増やしたい。

教育相談部	健全で意欲的な学校生活を送るための支援の充実	保健・相談部会や教育相談委員会を通して情報の共有を図り、支援を必要とする生徒をチームで支援する。担任、保健・相談部教員、保護者等、支援を必要とする生徒に関わる全ての大人が連携を密にし、必要に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの助言を受ける。	週1回程度の保健・相談部会や年5回の教育相談委員会の際に、悩みを抱える生徒の情報共有および関わり方の方針を話し合った。年3回の面接旬間において各クラス担任が丁寧に面接する中で、問題が深刻化する前にスクールカウンセラーにつなげることができたり、支援を必要とする生徒について、主治医の所見を指導に生かすことのできた事例もあった。今後、教務部と連携して、遠隔授業の受ける生徒を再登校につなげる仕組みに関われないか模索していく。
いじめ防止対策の推進	未然防止の取組 早期発見と対処	年3回の面接旬間や相談箱の活用を通じて、いじめの被害を相談しやすい環境づくりに努める。年2回の生活状況調査の結果を踏まえていじめ・不登校対策委員会を開き、いじめや、いじめにつながる可能性のある問題について、教員間で情報の共有を図るとともに、具体的な対応策を検討する。	年2回の生活状況調査の中でいじめの被害や見聞についての調査を実施した。いじめにつながる可能性のある案件については、担任および該当学年等で面談を実施した。さらにいじめ・不登校対策委員会で情報共有をし、継続して観察している。今後、年2回の調査で十分なのか、いじめの被害を訴えやすい機会を増やしていくことも視野に検討していきたい。
SSH部	分野融合プログラム、国際研修の 開発 課題研究指導の 充実 成果の普及・還元	SSH部やAKC企画プロジェクトを中心に、分野融合を意識したプログラムや新たな国際研修を開発する。大学や研究機関、市等と連携し、探究AKCや部活動等における課題研究の指導を充実させる。これまでの研究開発成果の普及・還元を力を入れる。	研究室体験研修や米国研修を初めて文理合同で実施し、新たな分野融合プログラムを開発・実践することができた。また、自然科学研究機構や名古屋大学との連携を強化し、探究AKCにおける課題研究指導を充実させることができた。一方で、国際研修や中学生等を対象とした事業の開発はまだ不十分であるため、今後もSSH部やAKC企画プロジェクトを中心に、新たなプログラムの開発に力を注いでいきたい。
第1学年	学習習慣の定着と基礎学力及び高い思考力の育成	学習記録、生活状況調査等の活用により、学習・生活状況を把握し、全体指導と個別指導を通して、学習への意欲を高める。	教員間の情報共有、担任面接等をもとに、生徒個々の実情に応じた指導を行った。学年集会等では、互いに尊重しあう集団に育つためのメッセージを継続して発信した。学習方法の本校への適応、品位・規律等に多少の課題があるため、第2学年でも粘り強く指導していく予定である。
第2学年	学習に係る資質・能力の向上及び進路の明確化	個別面談、進路希望調査等の活用により、学習状況や進路意識を把握し、学力の向上及び進路の明確化のための全体指導や個別指導の充実を図る。	個別面談や進路希望調査、考査等によって生徒の状況を把握し、学年全体で生徒情報や指導方針を共有した。学年集会においては学習の指針等を示し、また卒業生講話等の進路行事を通じ生徒の進路意識を向上させた。生徒の自発的、自律的な学習に対する意識を向上させるべく必要な声掛け・助言を個別指導を通じて行っていきたい。
第3学年	自律的な学習の継続と高い進路目標の実現	教員間で情報を共有し、適切な進路指導体制を作るとともに、個別指導を充実させ、自律的な学習を支援する。	進路指導部と連携した進路に関する検討会や学年会を開き、生徒情報や指導方針を共有した上で、個々の生徒に対する指導の在り方を検討し、個別指導を充実させた。それにより、多くの生徒が進路目標実現のため、最後まで粘り強く学習に取り組むことができた。一方で、主に学習・進路に対する不安や悩みを抱える生徒もいるため、今後より一層精神面でのサポート体制の充実を図る必要がある。
職場環境の改善	勤務時間の適正な管理 長時間労働による健康障害の防止	学期中の業務終了時刻については、電話対応終了時刻を目安とし、業務の効率化・平準化を図る。 定時退校日を定期的に設定し、適切なメンタルヘルスの維持に努めるとともに、教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。	昨年同様、月1回の定時退校日、日々の業務終了の前の声掛けを継続して行った。また「在校時間記録」から、在校時間が長い教員に声掛けを行った。特定の月に学校行事や学習指導が重なり、全体の在校時間が増えることがある。業務の精選に取り組んではいるが、なかなか既存の行事を削減することは難しい。まずは小さなことの地道な積み重ねが必要である。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		学校行事や各種式典、PTA行事等、滞りなく実施することができた。今年度は昨年度以上に暑く、体育大会等の学校行事での熱中症対策と、感染症対策の両立を心掛けた。また、生徒の欠席数がここ数年増加している。遠隔授業に関しては色々問題点がある。きめ細かな指導は大切であるが、魅力ある学校であるために、まずは職員が健康で業務を行えるように配慮をしたい。来年度は創立130周年である。地域の方々と協力しながら、各分掌、学年等が連携して組織的な教育活動を展開していく。	